

望ましい人間関係を育み、生徒の「人間関係力」を高めるための指導・支援の在り方の研究
～生徒指導の機能を生かす手立ての工夫を通して～

目 次

I	研究の概要	3-1
1	研究主題	3-1
2	主題設定の理由	3-1
3	研究の仮説	3-2
4	目指す生徒像	3-2
5	研究経過	3-2
6	研究内容	3-2
7	研究の全体構想	3-3
II	研究の実際	3-3
1	理論研究	3-3
(1)	生徒指導の機能と「人間関係力」	3-3
(2)	日々のふれあいの意義	3-5
(3)	日々のふれあいを豊かにするためのコミュニケーションサポートの視点づくり	3-6
2	実践研究	3-8
(1)	生徒指導の機能を重視した授業づくり	3-8
(2)	日々のふれあいにおける工夫	3-17
III	研究の成果と課題	3-20
1	成果	3-20
2	課題	3-20
	〈参考文献〉	3-20

I 研究の概要

1 研究主題

望ましい人間関係を育み、生徒の「人間関係力」を高めるための指導・支援の在り方の研究
～生徒指導の機能を生かす手立ての工夫を通して～

2 主題設定の理由

急激な社会情勢の変化にともない、現在、学校における生徒指導の諸問題は、大変複雑化してきている。中でも、いじめや不登校、ひきこもりなどの諸問題については、生徒が互いに良好な人間関係を十分に築くことができないことに起因すると同時に、時代の変化にともない、生徒をとりまく人間関係自体が大きく変化していることも一つの大きな要因なのではないかと考える。

例えば、高度情報化の象徴であるインターネットや携帯電話等の普及によって、コミュニケーションの主体が、画面上の言葉や絵文字に移り変わっていくことで、生徒にとっては、些細な感情の捉え方にずれが生じやすくなり、様々な人間関係のトラブル発生の要因となっている。

媒体を通じた間接的なコミュニケーションの機会の増加をふまえ、学校においては、これまで以上に、生徒が良好な人間関係を築いていくことができる力を、直接、人と人が接する機会を通して育成することが重要であると考え。つまり、生徒が友達や教師とのふれあいを通して、望ましい人間関係を築くことやそのよさを実感することは、成長過程において、大変重要なことである。

中学校学習指導要領の特別活動の目標では、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てることが示されている。また、小学校学習指導要領において、今回の改訂により、「人間関係」という文言が加えられている。

さらに、全国学力・学習状況調査の分析では、「友達と会るのが楽しい」と思っている子どもの方がテストにおける正答率が高く、家庭学習の時間も長く、学習意欲も高いことが指摘されている。これは、学校生活において仲間との望ましい人間関係が、一人一人の生徒の学ぶ意欲や態度にも作用していることを示していると考え。

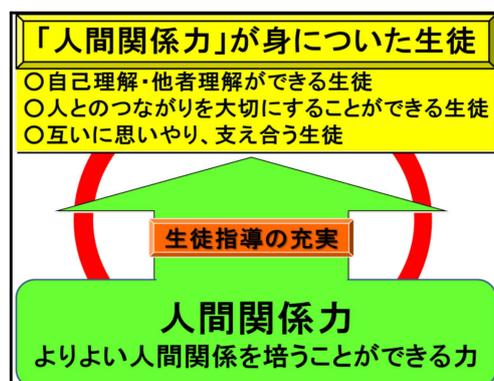
これらのことから、生徒の望ましい人間関係を育成し、生徒がよりよい人間関係を培うことができる能力を高めることは、現在、学校教育により強く求められている課題の一つであると言える。

三股町立三股中学校では、「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成」という教育目標をふまえ、目指す学校像の一つに「励まし合い助け合う学校」を掲げている。その具現化のためには、一人一人の生徒によりよい人間関係を培うことができる力を育成したい。

以上のことをふまえ、本研究では、研究主題の「人間関係力」を「一人一人の生徒がよりよい人間関係を培うことができる力」ととらえる。そして、本研究で目指す「人間関係力」が身についた生徒を

- 自己理解・他者理解ができる生徒
- 人とのつながりを大切にすることができる生徒
- 互いに思いやり、支え合う生徒

ととらえ、「人間関係力」を高めるための指導・支援の在り方を究明していく。(資料①)



【資料①：本研究で捉える人間関係力】

これらの「人間関係力」を身につけた生徒を育成するためには、生徒との日々のふれあいにおいて生徒指導の充実を図る必要がある。そのため、本研究では、生徒指導の機能を生かした指導・支援の工夫を行うことにより、望ましい人間関係を育み、「人間関係力」を高めることができると考え、本主題を設定した。

3 研究仮説

授業及び生徒との日々のふれあいにおいて、生徒指導の機能を生かした指導・支援の工夫を行えば、望ましい人間関係を育み、生徒の「人間関係力」を高めていくことができるであろう。

4 目指す生徒像

- 自己理解・他者理解ができる生徒
- 人とのつながりを大切にすることができる生徒
- 互いに思いやり、支え合う生徒

5 研究経過

月	研究内容	備考
4	研究主題、副題の決定、研究計画の立案	
5	理論研究、研究概要の決定、実態調査の実施と分析	三股中学校
6	意識調査①（本校の生徒）の実施と分析、検証授業の準備	三股中学校
7	検証授業①の実施（7月14日）、理論研究・検証授業①における分析と考察	三股中学校
8	中間発表の資料作成、中間発表会の実施（8月25日）	
9	理論研究、検証授業の準備、検証授業②の実施（9月30日）	三股中学校
10	検証授業②における分析と考察、研究のまとめ	
11	研究状況説明会の資料作成と実施（11月10日）、研究のまとめ	
12	意識調査②（本校の生徒）の実施・分析、仮説と実践の検証、研究のまとめ	三股中学校
1	研究報告書の作成、研究のまとめ	
2	研究報告書の作成、研究発表の準備	
3	研究発表	

6 研究内容

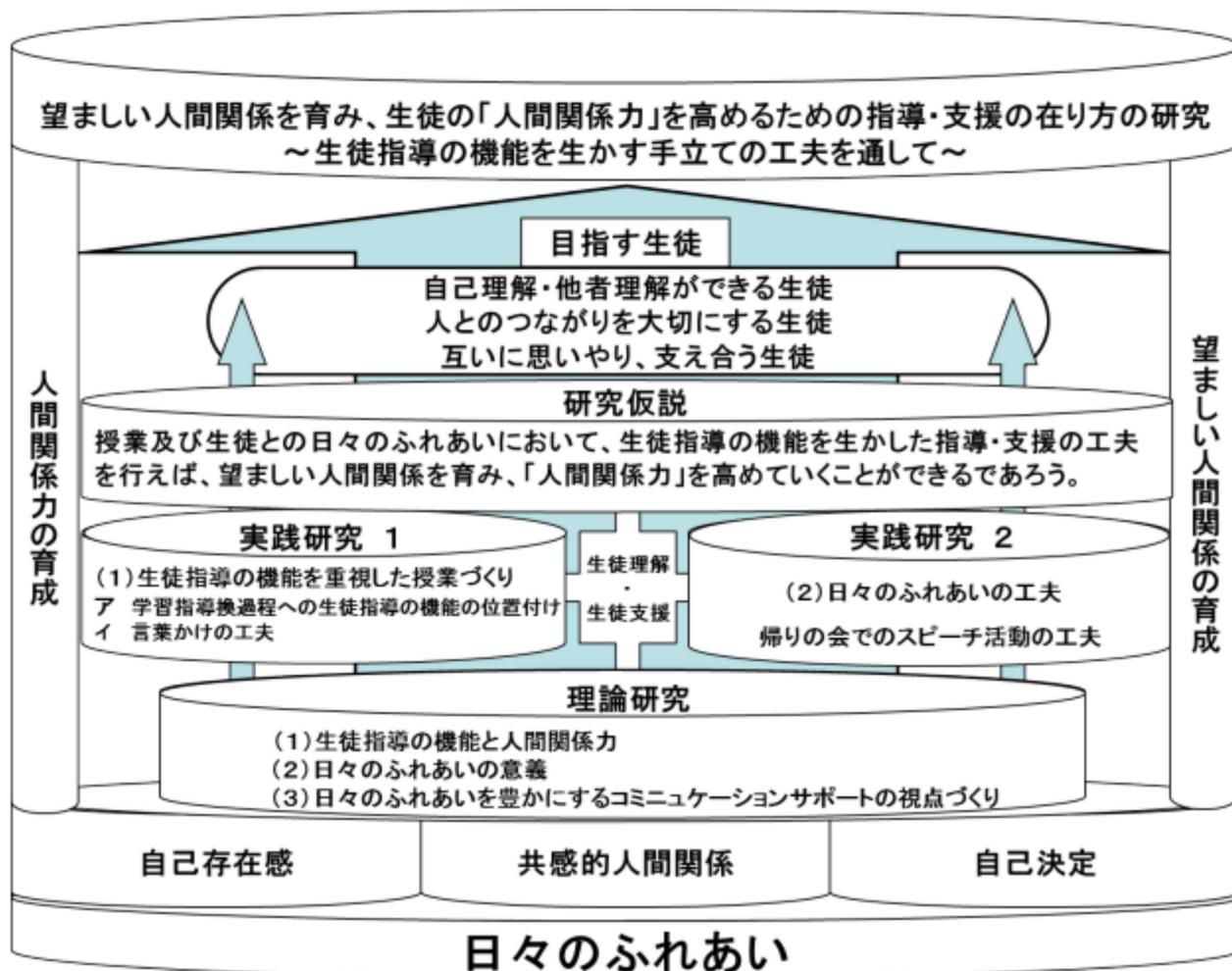
(1) 理論研究

- ア 生徒指導の機能と「人間関係力」
- イ 日々のふれあいの意義
- ウ 日々のふれあいを豊かにするコミュニケーションサポートの視点づくり

(2) 実践研究

- ア 生徒指導の機能を重視した授業づくり
 - ・ 学習指導過程への生徒指導の機能の位置付け
 - ・ 言葉かけの工夫
- イ 日々のふれあいにおける工夫
 - ・ 帰りの会でのスピーチ活動

7 研究の全体構想



II 研究の実際

1 理論研究

(1) 生徒指導の機能と「人間関係力」

本研究においては、「人間関係力」とは、「一人一人の生徒がよりよい人間関係を培うことができる力」ととらえた。「人間関係力」を身につけた生徒を育成するためには、生徒指導の充実を図る必要があり、生徒との日々のふれあいにおいて生徒指導の機能を生かした指導・支援の工夫を行うことが重要であると考えている。そこで、ここでは生徒指導の機能と「人間関係力」に関する理論研究として、生徒指導の意義及び学習指導や日々のふれあいにおけるその機能について、「生徒指導提要」（平成22年3月 文部科学省）や過去の生徒指導資料を参照し、整理し、実践研究につなげていく。

ア 生徒指導

生徒指導とは、「一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動のこと」である。また、その意義は、「教育課程の内外において一人一人の児童生徒の健全な成長を促し、児童生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指す」ことである。

イ 自己指導能力

自己指導能力とは、自己をありのままに認めること（自己受容）、自己に対する洞察を深めること（自己理解）、これらを基盤に目標を確立し明確化していくこと、そして、この目標達成のため、他者とのかかわりの中で、自発的・自律的に自らの行動を判断し実行するなどの力である。児童生徒が、日常生活のそれぞれの場で、他者とのかかわりの中どのような選択が適切であるか、自分で判断・実行し、その言動に責任をもつことができる力であり、言い換えれば、生徒が自己実現に向けて、自らの目標を明確にし、その目標の達成に向けて自らを主体的に方向付けていくために必要な能力である。

ウ 教科における生徒指導の意義と推進の在り方

学習指導における生徒指導においては、一人一人の児童生徒にとって「わかる授業」の成立や、一人一人の児童生徒を生かした意欲的な学習の成立に向けた、創意工夫ある学習指導の必要性が一層増している。そのための指導に際しては、①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助することの三つの視点に留意することが考えられる。具体的には、一人一人の児童生徒のよさや興味関心を生かした指導や、児童生徒が互いの考えを交流し、互いのよさに学び合う場を工夫した指導、一人一人の児童生徒が主体的に学ぶことができるよう課題の設定や学び方について自ら選択する場を工夫した指導など、様々な工夫をすることが考えられる。

生徒指導の機能を発揮させることは、児童生徒一人一人が生き生きと学習に取り組み、学校や学級・ホームルームの中での居場所をつくることである。一人一人に自己存在感や自己有用感を味わせるとともに、自尊感情を育て、自己実現を図るという重要な意義がある。学級・ホームルームでの座席やグループの編成などを工夫することでもあり、学習集団における人間関係を調整・改善し、豊かな人間性を育成することにつながる。学校生活の中心は授業である。児童生徒一人一人に楽しくわかる授業を実感させることは教員に課せられた重要な責務である。

(ア) 授業の場で児童生徒に居場所をつくる（児童生徒に自己存在感を与えること）

児童生徒一人一人を深く理解し、授業の場での活躍の場をつくること。生徒一人一人のよさや得意分野を積極的に生かすこと。そうすることで、生徒が学習に対する充実感や達成感を味わい、自己理解を深めことができる。また、将来の自分の在り方や生き方を考える際の基盤にもなる。

(イ) 共に学び合うことの意義と大切さを実感させる（共感的な人間関係を育成すること）

児童生徒一人一人が大切にされる授業を展開し、互いのよさや可能性が発揮できるようにする。生徒に協同で学ぶことの意義を知らせ、学級やグループで協力して学ぶことの大切さを実感させる。自分と違った友達の見方や考えなどを認めたり、学習に遅れがちな友達やつまづいている友達を支えたりすることは、お互いの違いを認め合い、支え合い、学び合う人間関係を醸成することにつながる。また、思いやりのある心や態度を形成することができる。

(ウ) わかる授業を行い、主体的な学習態度を養う（自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助すること）

児童生徒一人一人が学習の目標をもって意欲的に生き生きと授業に参加し、主体的な学習態度を養うように努める必要がある。すなわち、生徒が学習に対して自ら目標や課題を持ち、自ら考え、自ら判断し、自ら行動しながら主体的に問題を解決していく能力や態度を育むことが重要である。

これらア～ウの内容をふまえ、本研究では、生徒指導を、生徒一人一人の人格の成長のための指導・支援であり、その目的は、あらゆる場や機会において生徒の自己実現のために生徒指導の機能を十分に生かした指導を工夫しながら行い、自己指導能力の育成を図ることととらえた。そして、自己指導能力は、生徒が主体的に課題を見つけ、解決方法を模索し、適切な判断を行い実践し、その実践から自己を振り返り、改善していくことができる能力ととらえることとした。その自己指導能力を育てていくための場と機会は、学習指導の場を含む、学校生活のあらゆる場や機会であり、授業や休み時間、放課後、部活動や地域における体験活動の場においても、生徒指導を行うことが必要である。

(2) 日々のふれあいの意義

ふれあいとは、人と人が、ある関係性を持続していくことであると考え。教師が生徒とふれあいをもつとき、どのような関係性をもっていなければならないのだろうか。また、教師は、どのような点に配慮していかなければならないのだろうか。

生徒指導の目的には、「児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるように指導、援助するものである。」とある。その最終的なねらいは、自己実現を図っていくための自己指導能力の育成である。この目的達成のためには、まず、教師は、生徒個人の人柄や特徴そして、人との関係性を知っておかなければ、生徒との様々な関係を築いたり、生徒を指導・支援したりすることはできないと考える。

教師に求められていることは、「一人一人の生徒をどのように理解し、指導・支援していくのか」ということである。そのために、生徒との日々のふれあいにおいては、生徒との様々な関係を築くとともに、児童生徒理解と指導・支援の在り方が重要である。このことは、日常的な教育相談を充実することともとらえられる。

ア 生徒指導の基盤となる児童生徒理解

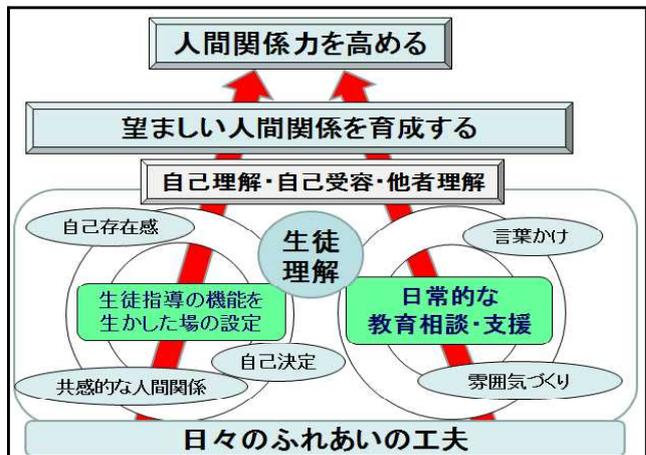
児童生徒理解とは、児童生徒を多面的・総合的に理解していくことが重要であり、学級担任・ホームルーム担任の日ごろの人間的なふれあいに基づくきめ細かい観察や面接などに加えて、学年の教員、教科担任、部活動等の顧問などによるものを含めて、広い視野から児童生徒理解を行うことが大切である。一人一人の児童生徒を客観的かつ総合的に認識することが第一歩であり、日ごろから一人一人の言葉に耳を傾け、その気持ちを敏感に感じ取ろうという姿勢が重要である。それとともに、教員と児童生徒との信頼関係を築くことも生徒指導を進める基盤であると言える。信頼関係は、日ごろの人間的なふれあいと児童生徒と共に歩む教員の姿勢、授業等における児童生徒の充実感・達成感を生み出す指導、児童生徒の特性や状況に応じた的確な指導と不正や反社会的行動に対する毅然とした指導などを通じて形成されていくものである。その信頼関係をもとに、児童生徒の自己開示も進み、教員の児童生徒理解も一層深まっていくと言える。

イ 日常的な教育相談

中学校学習指導要領解説（特別活動編）では、教育相談とは、「教育相談は、一人一人の生徒の教育上の問題について、本人又はその親などに、その望ましい在り方を助言することである。その方法としては、1対1の相談活動に限定することなく、すべての教師が児童生徒に接するあらゆる機会をとらえ、あらゆる教育活動の実践の中に生かし、教育相談的な配慮をすることが大切である。」とされている。

すなわち、教育相談は、児童生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図るものであり、決して特定の教師だけが行う性質のものではなく、相談室だけで行われるものではない。このことからわかるように、日常的な教育相談では、時、場所を問わず、生徒一人一人の現状を内面的なこと（心情的なもの）を含め、より深く理解するために、言葉かけをしたり、様々な手法で相談をしたり、さらに、話をすることができる環境作り（雰囲気作り）を行っていかなければならない。

日々のふれあいでは、日々のふれあい方で生徒理解と支援の仕方を工夫し、関係性を積み重ねていくことが重要である。右記に日々のふれあいと人間関係力の関係を表した。(資料②) さらに、日々のふれあいでの工夫において、生徒との人間関係を高めるために、教師がふれあうときの注意点を意識して教育活動を行うことが大切であると考え、日々のふれあいにおける留意点をまとめていくこととする。



【資料②：日々のふれあいと人間関係力】

(3) 日々のふれあいを豊かにするためのコミュニケーション・サポートの視点づくり

日々のふれあいを豊かにすることは、生徒と教師が望ましい人間関係を作り上げる機会であると考え、教師が生徒と接する意義や目的を明確に意識しながら、接する機会をとらえていくことが大切であると考え。

また、生徒とのふれあいを豊かにすることを生徒とのコミュニケーションの充実ととらえる。そこで、日々のふれあいを豊かにし、生徒とのコミュニケーションを充実するための視点を「教師と生徒のコミュニケーション・サポート」とし、その留意点を合わせ、以下のように設定した。

○ 教師と生徒のコミュニケーション・サポートの視点

- ① 生徒の動きをよく観察する。
 - 観察をしながら、友達関係や行動面等の特徴をつかむようにする。
- ② 生徒の長所を見付ける。
 - 長所・得意分野を見つけ、良いところをほめる。
- ③ 生徒の話をよく聞く。
 - カウンセリングマインドを生かし、日常的な教育相談をする。
- ④ 生徒の願い（希望）を聞く。
 - 親身になって聞き、問題点等を絞る。
- ⑤ 生徒が話しやすい雰囲気になるような言動をとる。
 - 声かけを行うとともに、安心感をもたせる雰囲気や状況にする。
- ⑥ 生徒が自己解決を図りやすいように適切なアドバイスをする。
 - 生徒に考えさせ、自己解決ができるようにする。
- ⑦ 生徒一人一人に合った対応をする。
 - 状況に合わせて、コミュニケーションの仕方を変えていく。
- ⑧ 生徒を見守る。
 - 状況を判断し、声をかけるタイミングを図る。

教師にとって、生徒とどのように接していくかは課題の一つである。それを具体的にすることとして、「教師と生徒のコミュニケーション・サポート」の視点を利用することで、接するときの意識を明確化することができると思う。

○ 日々のふれあいにおける言葉かけ

日々のふれあいを豊かにするには、教師が機会をとらえ、生徒にどのような言葉かけをすることが重要であると思う。そこで、学校生活の一日の流れに沿って話をするきっかけとなる言葉かけの例を示す。(資料③)

観	日常的な言葉かけの例	気になる生徒に対しての言葉かけの例	視点
登校 入室時	<ul style="list-style-type: none"> ・「おはようございます。」 ・「今日も元気がいいですね。」 ・「何か変わったことはないですか。」 ・「コンディションはどうですか。」 ・「気持ちがいい朝だね。」 ・「もう風邪はだいじょうぶかな。」 等 (特に体調面について言葉かけをする。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おはようございます。」 ・「今日は〇〇〇の日ですね。」 ・「しっかり朝食を食べてきましたか。」 ・「調子が悪そうだけど大丈夫。」 ・「△△のことはどうなったの。」 ・「一人で悩まないようにして。」 ・「何でも話してみて。」 等 	① ②
朝自習	<p>○ 生徒を観察することが中心となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「集中してますね。」 ・「よく考えていますね。」 ・「復習がしっかりできてるね。」 ・「この調子でやっ페이こう。」 等 (特に学習面について言葉かけをする。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「疑問点があったら聞いてね。」 ・「何か悩みがあるのではないですか。」 ・「いつでも相談にのるよ。」 等 (生徒の言葉に合わせていくことが大切) 	① ⑤
朝の会	<p>○ 健康観察で生徒の様子をみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いつでもいいから話をしましょう。」 ・「□□のニュースがありました、～～」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「何か心配ごとがあるのではないですか。」 ・「力になることはないかな。」 	① ④ ⑧
授業	授業における言葉かけについては、4-10に提示する。		
給食	<p>○ 班・グループの中に入り、一緒に給食を食べながら様子を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「しっかり食べましょう。」 ・「〇は～だからとても体にいいんだよ。」 ・「□□についてどう思う。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇さん・〇〇くん 大丈夫かな。」 ・「昼休み話をしようね。」 	① ③ ⑤ ⑧
昼休み	<p>○ 午前中等の状況や生徒の様子を考えて、声をかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「けがをしないようにしてね。」 ・「私は、□□にいますので、いつでも来て下さいね。」 ・「質問があればいつでもいいですよ。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ちょっと話がしたいから時間空けておいてね。」 ・「今日時間あるかな。」 ・「ちょっと手伝ってほしいな。」 	① ⑥ ⑦
掃除	<p>○ 基本的に無言で作業をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「きれいになっていきますね。」 ・「気持ちがいいですね。」 ・「工夫してるね。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「考えごとかな。」 ・「気になることがあるんじゃないかな。」 等 	① ②
授業	授業における言葉かけについては、4-10に提示する。		
帰りの会 放課後	<p>○ 帰りの会で相談についての話をする。</p> <p>○ 今日のよいところをほめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「今日は□□□のよいことがありました。とてもいいことですね。」 ・「みんなで拍手。」 ・「～～という話を知っているかな。」 <p>○ 日直と一緒に仕事をしながら観察し、言葉かけを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「もう帰るの。」 ・「どうしたの。」 ・「何かあったの。」 ・「ちょっと話をしようか。」 ・「頼み事があるんだけどいいかな。」 	④ ⑥ ⑦ ⑧

【資料③：言葉かけの例】

2 実践研究

(1) 生徒指導の機能を重視した授業づくり

本研究では、「人間関係力」が身についた生徒を

- 自己理解・他者理解ができる生徒
- 人とのつながりを大切にすることができる生徒
- 互いに思いやり、支え合う生徒

としてとらえ、その具現化を目指している。

このことをふまえ、ここでは、「授業において目指す生徒の姿」を次のように設定し、それを実践するための手立てを講じていくこととする。

『授業において目指す生徒の姿』

- ①自分の考えをもつことができる。
- ②友達のことを理解することができる。
- ③自分の考えをしっかりと伝えることができる。
- ④友達のことを大切に聞くことができる。
- ⑤お互いに協力しながら学習に取り組むことができる。

ア 学習指導過程への生徒指導の機能の位置付け

理論研究の「教科における生徒指導の意義と推進の在り方」で述べたように、授業においては、生徒指導の機能（児童生徒に自己存在感を与えること、共感的な人間関係を育成すること、自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助すること）を重視することが、学習集団の人間関係を調整・改善することにつながる。

そのために、数学科の授業における学習指導過程の各段階に特に重視したい生徒指導の機能を位置付ける。

学習指導要領中学校数学科の目標は、「数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。」ことである。

数学の授業においては、数学的な表現を用いて、根拠を明らかにし筋道を立てて説明し合う活動の場を設定するなど、数学的活動を通して、生徒が思考・判断したり、表現したりすることで、その楽しさや数学のよさを実感することが大切であると考える。

そのために1単位時間の学習指導過程を次のように設定する。(資料④)

段階	学 習 活 動
つかむ	・ 学習問題を自分のものとして捉え、問題解決のための見通しをもつ。
調べる	・ 自分でじっくり考え、工夫しながら問題解決をする。
深める	・ 自他の考えを知り、他と協力し、互いを認め合いながら問題解決をする。
広げる	・ 適用問題を解決しながら、よりよい考えや方法を自己選択する。
まとめる	・ 学習活動を振り返り、お互いの努力を認め合いながら、本時の学習内容をまとめる。

【資料④：学習指導過程の各段階】

この学習指導過程の各段階において、生徒指導の機能を積極的に生かすことで、先に述べた「授業における目指す生徒の姿」の具現化を図っていききたい。そのため学習指導過程の各段階において特に重視したい生徒指導の機能を次のようにとらえることとした。(資料⑤)

段階	特に重視したい生徒指導の機能	目指す生徒の姿との関連
つかむ 問題理解	○ 児童生徒に自己存在感を与えること 自己存在感	・ 学習問題を自分のものとしてとらえ、問題解決のための見通しをもつ。 ①
調べる 自力解決	○ 児童生徒に自己存在感を与えること 自己存在感	・ 自分でじっくり考え、工夫しながら問題解決をする。 ①
深める 集団解決	○ 共感的な人間関係を育成すること 共感的な人間関係	・ 自他の考えを知り、他と協力し、互いを認め合いながら問題解決をする。 ②③④⑤
広げる 自己確認	○ 自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助すること 自己決定	・ 適用問題を解決しながら、よりよい考えや方法を自己選択する。 ①
まとめる 次への意欲	自己存在感 共感的な人間関係 自己決定 達成感・成就感	・ 学習活動を振り返り、お互いの努力を認め合いながら、本時の学習内容をまとめる。 ①②⑤

【資料⑤：学習指導過程の各段階と特に重視したい生徒指導の機能】

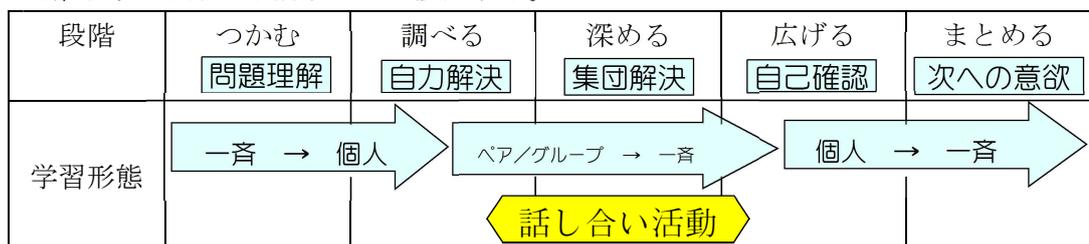
次に、生徒指導の機能を生かし、「授業において目指す生徒の姿」を具現化するための手立てとして学習形態の工夫について考える。

学習指導過程の各段階において学習形態を工夫することでは、「授業において目指す生徒の姿」との関連から、次のような効果が期待できると考える。

- 個人で考える時間を十分に設定することで、自分の考えをもつことができる。
- ペアやグループによる話し合い活動を取り入れることで、自分の考えを伝え、友達の考えを聞き、互いの考えを理解し合いながら、協力して学習することができる。
- 広げる段階で、本時の学習を振り返りながら、適用問題に取り組むことで、よりよい考えを自分で選択することができる。
- まとめる段階で、本時の学習活動を振り返り、互いに称賛する場を設けることで、達成感や成就感を味わい、よりよい人間関係への気付きと次の学習への意欲を培うことができるであろう。

以上のことを踏まえ、次のように学習指導過程の各段階において、学習形態を工夫することとした。

また、ここでの話し合い活動とは、互いの考えを友達に説明し合い、多様な考え方に触れ、自己の理解や考えを深める活動として設定する。



【資料⑥：学習指導過程の各段階と学習形態の工夫】

イ 言葉かけの工夫

学校生活の大半を占める授業における言葉かけは、理論研究で述べた日々のふれあいにおける言葉かけの中でも、生徒の心情に与える影響は大きいと考える。授業の学習指導過程の各段階においても、コミュニケーション・サポートの視点を活用して、生徒指導の機能を重視した言葉かけを行うことが大切である。そのために、ここでは授業における教師の言葉かけの例を示すとともに留意点をまとめる。(資料⑦)

	学習形態と学習活動	コミュニケーション・サポートの視点	教師の言葉かけ	重視したい生徒指導の機能と留意点
授業前	個人 授業準備 2分前	① ② ⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・「今日は〇〇について学習していくよ」 ・「△△(〇〇公式)を覚えているかな」 ・「今日、発表してみようか」 ・「何でも質問していいんだよ。」 ・「前の時間は〇〇を頑張ったね」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 落ち着いた雰囲気づくりや学習への意欲を高める。 自己存在感 共感的な人間関係
つかむ	一斉 問題理解	① ② ⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・「問題の意味は理解できましたか」 ・「気づいたことをあげてみよう」 ・「これまでにどんな学習をしましたか」 ・「これまでと共通点や相違点は何だろう」 ・「これまでの学習が活用できそうですね」 ・「難しそうに見えるけど条件を整理すると解決できそうですね」 ・「さあ、まずは自力で解決してみよう」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習事項を振り返らせながら、本時の学習問題につなぐ。 ○ 問題の意味を確実につかませる。 ○ 解決への意欲や自信を高める。 自己存在感
調べる	個人 自力解決	③ ④ ⑥ ⑦ ⑧	<ul style="list-style-type: none"> ・「何を求めたいの」 ・「分かることを図に書き込んでみよう」 ・「前に使った考え(方法)が使えないかな」 ・「これまでとどこが違うかな」 ・「すごいことに気がついたね」 ・「いい考えですね、他の考えはないかな」 ・「友達に説明できるよう整理してみよう」 ・「自分のことばで、数、式、図、表、グラフなどを使って説明できるようになろう(つまづいている生徒へ)」 ・「どこが求められればいいのか」 ・「手順を確認してみよう」 ・「〇〇まではあっているよ、もう少しだ」 ・「ここまでよく頑張ったね」 ・「途中の計算を確認してみよう」 ・「他にわかっていることは」 ・「ノートの〇〇をみてごらん」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自力解決の場面では、全体への言葉かけを精選し、できるだけ生徒自身が解決のためのアイデアに気づくことができるようにする。 ○ 机間巡視を行い生徒の学習状況を確認しながら一人一人に適切な個別指導を行う。 ○ 一人一人の生徒が学習活動に参加していること自体を大事にする。 自己存在感
深める	ペア／ (話し合い活動)		<p>(話し合い活動への自信や意欲の高揚)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分の言葉で説明してみよう」 ・「相手が分かりやすいように工夫しよう」 ・「途中までの説明でもいいですよ」 ・「相手の話をしっかり聞いて理解しよう」 ・「失敗や間違いを笑ってはいけません」(ペア／グループ) ・「相手の説明を聞いて何に気づいたかな」 ・「共通点や相違点を見つけてみて」 ・「分かりやすい説明でしたね」 ・「他の方法もあるよ、二人で他の方法も考 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話し合い活動では、自分の考えを説明したり、友達の考えを聞いたりして、互いの考えを理解し合いながら、協力して問題を解決することのよさを生徒自身が実感することができるようにする。 共感的な人間関係

	グループ 一斉	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 集団 解決 </div> (発表)	② ③ ④ ⑦	えてみて」 (一斉) ・「ペア／グループで話したとおりでもいいので、自信をもって発表してみよう」 ・「途中まででもみんなが助けてくれるから大丈夫です」 ・「発表を聞いて気づいたことは」 ・「自分との共通点や相違点は」 ・「大変分かりやすい説明でしたね」 ・「何を使っていましたか」 ・「大切なことは何でしたか」 ・「よいところはどんなところですか」 ・「いい話し合いができました」	
広 げ る	個 人	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 自己 確認 </div>	① ② ⑥ ⑦	・「今日の学習をもとに、次の問題を解いてみよう」 ・「先の問題と比べながら解いてみよう」 ・「途中の計算をしっかりと確認して」 ・「よくできました」 ・「今日の学習内容がしっかりと理解できましたね」 ・「よくできました、がんばりました」 ・「次の問題も解くことができるぞ」 ・「次はどの方法で解きますか」	○ 適用問題を自力解決しながら、よりよい考えや方法を選択できるようにする。 ○ 学習内容の定着状況を確認し、個に応じた指導を行う。 ○ 達成感や成就感につなげる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 40px;"> 自己決定 </div>
ま と め る	一 斉	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 次への 意欲 </div>	① ② ⑧	・「今日の学習を自分の言葉でまとめよう」 ・「ポイントは何でしたか」 ・「頑張ったことやよかったことはどんなことでしたか」 ・「みんな一生懸命がんばりました」 ・「考えを話し合いながら学習すると、他の考えもわかって、自分の考えが深まりますね」 ・「次の学習も今日の学習を生かすことができます。頑張りましょう」 ・「今日の授業の感想とアンケートを記入してください」	○ できるだけ自分の言葉でまとめさせる。 ○ 互いのがんばりやよさを認め合える言葉かけをする。 <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 0 auto;"> 自己存在感 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 0 auto;"> 共感的な人間関係 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 0 auto;"> 自己決定 </div> ↓ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 0 auto;"> 達成感・成就感 </div> </div>

【資料⑦：授業における言葉かけの例】

ウ 授業の実際

本研究の「授業において目指す生徒の姿」の具現化を目指した検証授業について記述する。

(7) 単元名 二次方程式

(4) 単元の目標

- ・ 具体的な場面で二次方程式を活用して問題を解決しようとする。 (関心・意欲・態度)
- ・ 数量の関係を二次方程式に表し、それを解き、求めた解を吟味し、問題解決の方法が適切であるか振り返り、判断することができる。 (数学的な考え方)
- ・ 数量の関係を二次方程式で表し、二次方程式に応じて適切な方法でその解を求めることができる。 (数学的な技能)
- ・ 二次方程式の必要性とその解の意味と、二次方程式を用いて問題を解決する手順を理解する。 (数量や図形などについての知識・理解)

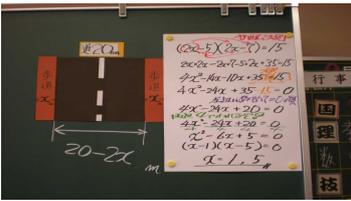
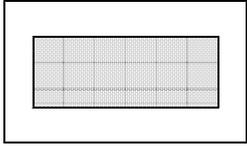
(ウ) 本時の目標

- 具体的な場面で、二次方程式を利用して問題を解決することができる。
- 問題解決の過程を通して、解の吟味の必要性について理解する。

(エ) 本時のポイント

本時は、二次方程式の利用の場面である。具体的な場面の問題解決の場面をとおして、「求めたい数を文字に置き換える→数量の関係をとらえ方程式を立てる→方程式を解く→解の吟味をする→答えを出す」といった二次方程式を用いて問題を解く手順の各段階を丁寧におさえ、特に解の吟味の必要性について理解できるよう指導する。また、個人思考の時間を十分にとり、その後、ペア、一斉といった学習形態をとることにより、先の問題を解く手順を生徒自身が互いに意識し合いながら問題解決ができるように工夫する。また、問題解決に躓いている生徒には、机間指導等により、ヒントや重要ポイントを提示するなど、個別の対応を行う。このような指導を通して、授業において生徒指導の機能を生かし、「授業において目指す生徒の姿」の具現化を図る。

(オ) 学習指導過程への生徒指導の機能の位置付けと教師の言葉かけ

段階	学習活動	特に重視したい生徒指導の機能	学習形態	教師の言葉かけ
つかむ	○既習事項の確認 ・二次方程式の解き方 ・数量を文字を使って表すこと		個人 ↓	※本時の学習問題につながる既習事項を確認しておく。 ・「この二次方程式を解いてみよう」 ・「この長さを文字を使って表すと」 
	○本時のめあてと学習問題の把握			・「今日は、二次方程式を使って具体的な問題を解いてみよう」
問題理解	【めあて】 二次方程式を利用して問題にあう答えを求めよう。			
	【学習問題】 縦300cm、横400cmの長方形の白い壁があります。 この壁に、次のように決めて、文化祭のモザイクアートを書くことになりました。 ① アートの周りに、等しい幅で白地の部分を残す。 ② アートの面積は、壁の半分の面積とする。 このとき、白地の部分の幅は、何cmとなりますか。 また、モザイクアートの縦と横の長さは何cmとなりますか。 			
	◇学習問題を自分のものとして捉え、問題解決のための見通しをもつ。	自己存在感	一斉 ↓	○既習事項を振り返りながら、学習問題を把握させる。 ・「問題の意味は理解できましたか」 ・「難しそうな問題ですが、これまでの学習を生かせば、解決できますよ」 ・「気づいたことはありませんか」 ・「これまで何を学習をしましたか」

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">調べる</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">自力解決</p>	<p>○ 個人で問題を解く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◇自分でじっくり考え、工夫しながら問題解決をする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>自己存在感</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>(解答例)</p> <p>白地の部分の幅の長さを x cm とすると、アートの縦の長さは $(300 - 2x)$ cm、横の長さは $(400 - 2x)$ cm となる。アートの面積は壁の面積の半分だから、次の方程式が成り立つ。</p> $(300 - 2x)(400 - 2x) = 300 \times 400 \div 2$ <p>これを解いて、$x = 50$、300</p> <p>ただし、$x = 300$ は問題にあわない。 $x = 50$ は問題にあっている。</p> <p>よって白地の幅は 50 cm そのときアートの縦は 200 cm 横は 300 cm</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>		<p>個人</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「何を求めたいのですか」 ・「わかっていることは何ですか」 ・「前の学習を思い出してみて」 ・「これまでとどこが違いますか」 ・「まずは、自分の力で解いてみよう」 <p>○問題解決に向けて、個に応じた言葉かけを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「図から気づくことはありませんか」 ・「分かっていることを図に書き込んでみよう」 ・「前に学習したことが使えませんか」 ・「これまでのノートを見てごらん」 ・「似たような場面はありませんでしたか」 ・「アートの縦、横の長さは、どのように表せばよいでしょうか」 ・「途中の計算を確認してみてください」 ・「ここまではあっているよ」 ・「解が2つ求まりましたね」 ・「どちらからも問題にあうのかな」 ・「どうして合わないの」 ・「すごいことに気づいたね」 ・「友達に説明できるように整理してみよう」 <p>※自力解決の場面では、生徒がじっくり思考を深めることができるよう全体への言葉かけは精選して行う。</p>
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">深める</p>	<p>○ペアでの話し合い活動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◇自他の考えを知り、他と協力し、互いを認めながら問題を解決する。</p> </div> <p>【話し合い活動の行い方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えの説明 2分×2人 ・互いの良い点や改善点を伝え合う。 3分 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>共感的な人間関係</p> </div>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">集 団 解 決</p>	<p>○全体での話し合い活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表者（2組）が発表する。 ・気づいたことや感じたことを話し合う。 	<p style="text-align: center;">共感的な 人間関係</p>	<p style="text-align: center;">一斉</p> 	<p>※机間指導をしながら、発表者を意図的に指名しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ペアで話したとおりでもいいので、自信をもって発表してみよう」 ・「途中まででもみんなが助けてくれるから大丈夫です」 ・「発表を聞いて気づいたことや感じたことはありませんか」 ・「自分と共通するところや違うところに気づくことができましたか」 ・「途中の計算を丁寧にしていましたね」 ・「これまでに学習したどんなことを使っていましたか」 ・「大切なことは何でしたか」 ・「二次方程式の利用では、求めた解が問題にあうか吟味することが必要なことでしたね」 ・「発表を聞いてよかったと思ったことはどんなところでしたか」 ・「とてもいい話し合いができました」
		<p>○適用問題による確認</p> <p>◇適用問題を解決しながら、よりよい考えや方法を自己選択する。</p>	<p style="text-align: center;">自己決定</p>	<p style="text-align: center;">個人</p> 
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">広 げ る</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">自己確認</p>	<p>○本時のまとめ</p> <p>◇学習を振り返り、お互いの努力を認め合いながら本時の学習内容をまとめる。</p>	<p style="text-align: center;">自己存在感 共感的な 人間関係 自己決定</p> 	<p style="text-align: center;">一斉</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「今日の学習したことを自分の言葉でまとめてみよう」 ・「今日のポイントは何でしたか」 ・「今日の学習で頑張ったことやよかったことはどんなことでしたか」 ・「今日の授業の感想とアンケートを記入してください」 ・「次の学習も今日の学習を生かすことができます。頑張りましょう」
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ま と め る</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">次への意欲</p>	<p>○次時の予告</p>	<p style="text-align: center;">達成感 ・ 成就感</p>		

(カ) 学習形態の工夫

検証授業においては、ペアによる話し合い活動を取り入れた。

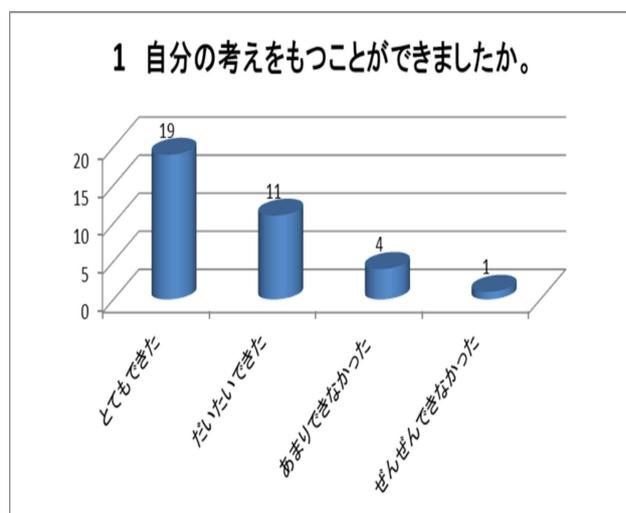
ペアは、様々な組み方が考えられるが、誰とペアを組んでも、互いに協力しながら学習に取り組めることができるようになることが、自他を思いやり、互いを支え合える人間関係作りにつながるものとする。そのためには、学級経営が基盤であり、話し合い活動の質を上げる日常的な鍛錬が必要となる。

エ 検証授業の分析と成果と課題

検証授業における手立ての有効性について、授業後の生徒のアンケートや感想をもとに分析する。

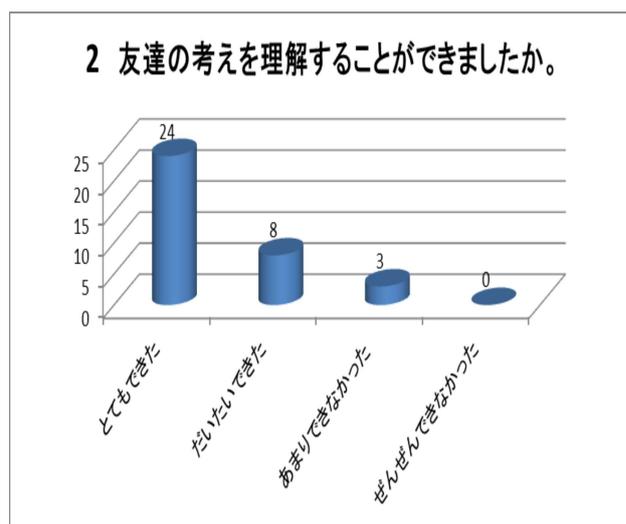
① 「自分の考えをもつことができたか」に

ついては、自分の考えをもつことができた生徒が30名であり、学習形態を工夫し、調べる段階で個人で考える時間を十分にとったことや、つかむ段階での既習事項の確認を行うなどの手立てについて、概ね効果があったと考える。一方、5名の生徒が、自分の考えがもてなかったと回答していることから、個に応じた既習事項の定着を図る指導や、つかむ段階や調べる段階での教師の言葉かけを工夫する必要があると考える。



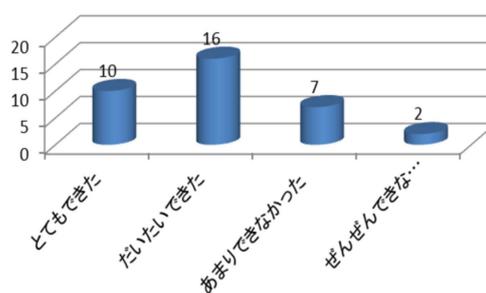
② 「友達の考えを理解することができたか」

については、理解できたという生徒が32名であり、深める段階でペアによる話し合い活動を取り入れた意義が大きいと考える。友達の考えを理解できなかったという生徒に対しては、相手の話を聞くためのポイントや既習事項などについての個に応じた指導をする必要があると考える。



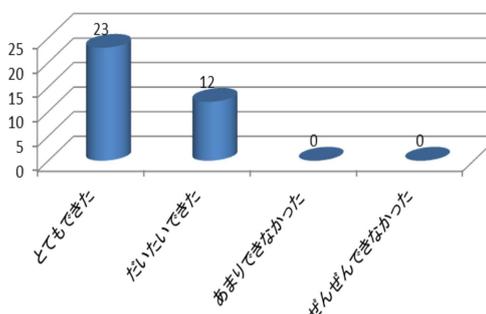
③ 「自分の考えをしっかりと伝えることができたか」については、伝えることができた生徒は26名であるが、9名の生徒が、できなかったと回答している。話し合い活動において、要点を簡潔に話すなど自分の考えを分かりやすく伝えるための工夫について指導をしていく必要があると考える。また、自分の考えを伝えることへの自信を高める教師の言葉かけを工夫していく必要があると考える。

3 自分の考えをしっかりと伝えることができましたか。



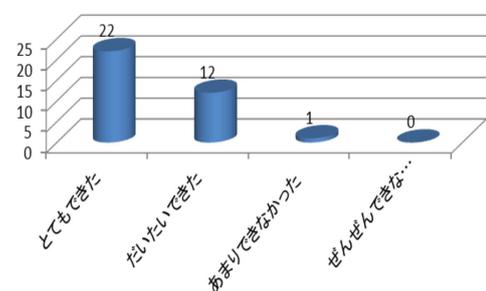
④ 「友達の考えを大切に聞くことができたか」については、全員の生徒ができたと回答している。本授業における友達の考えを聞くことについての手立てはもとより、本学級においては互いを思いやり支え合おうとする人間関係が概ね良好であると考え。

4 友達の考えを大切に聞くことができましたか。



⑤ 「お互いに協力しながら学習に取り組むことができたか」については、1名を除く全ての生徒ができたと回答している。また、以下の生徒の授業後の感想からも、話し合い活動を通して、お互いを支えながら学習していくことよさを実感できているのではないかと考える。

5 お互いに協力しながら学習に取り組むことができましたか。



- 「自分の考えを相手に伝えて、相手の考えも良く聞きながら、協力して問題を解くことで納得いく答えを出すことができた。楽しく学習できてとてもよかったと思う。」
- 「人に説明すると自分もより深く理解できて長い間、頭の中に残るので、説明することが好きです。また、自分と違った考え方を聞くのも楽しいです。自分で気がつかなかったことに気がつきます。」
- 「自分の考えることと友達の考えることは、違っていて自分にはない考えを聞いて勉強になった。また、友達とペアが組めたので、その分授業も楽しくなるし、より仲を深めることができると思う。」

以上のことから、授業における学習指導過程の各段階において、重視したい生徒指導の機能を設定し、学習形態や教師の言葉かけを工夫することにより、授業において目指す生徒の姿の具現化につながった。

(2) 日々のふれあいにおける工夫

ア 帰りの会でのスピーチ活動での実践

日々の生活において、生徒指導の機能を十分に生かすには、生徒による自己表現の場を積極的に設定することが重要となってくる。

つまり、生徒は自己表現の場を経験することで、自己を見つめ直し自己理解が深まる。また、考えを相手に伝えることができた喜びから、充実感や達成感、自己存在感を味わうことにつながる。さらに、友達の意見を聞き、自分と異なる見方や考え方を知り、それを認め、友達を支える気持ちをもつことで、共感的な人間関係を育成することにつながる。そして、自分の思いを伝えるためには、自ら目標をもち、どのように表現すればよいか考え判断し、行動するといった自己決定をする必要がある。これらのことは、将来の自分の在り方や生き方を考える際の基盤ともなるものである。

ところで、生徒は、校時程に沿って学校生活を送り、その中で時間を見つけて会話をしている。しかし、一日の学校生活において、教師が意図的・計画的に設定した生徒による自己表現の場は、意外と少ないのではないかと感じる。

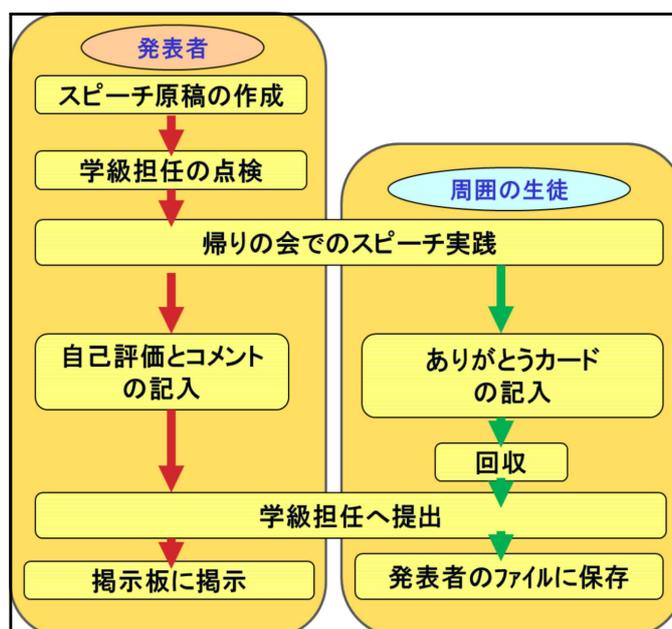
そこで、教師が意図的・計画的に設定する生徒による自己表現の場として、日々の帰りの会においてスピーチ活動を取り入れることとした。具体的には、以下の「1分間スピーチ」と「スピーチワン」という活動を行った。また、スピーチ後に生徒間で互いの感想を伝えあうために「ありがとうカード」を活用した。

(ア) 「1分間スピーチ」の実際

右のような手順で、週2回を目安に、1回2名がスピーチを行うように設定した。(資料⑧) 発表のために事前に書く原稿は、300文字程度とし、1分程度で発表できるようにした。発表者は、自己のテーマを決め、学級全員の前でそのテーマに沿ってスピーチを行う。(資料⑨) 発表後には、自己評価を行う。

発表者以外の生徒は、スピーチ終了後すぐに、「ありがとうカード」に気づいたことや感想を記入して、学級担任に提出する。

学級担任は、全員のカードを確認してから、コメントを添えて発表者に渡す。



【資料⑧：1分間スピーチの手順】

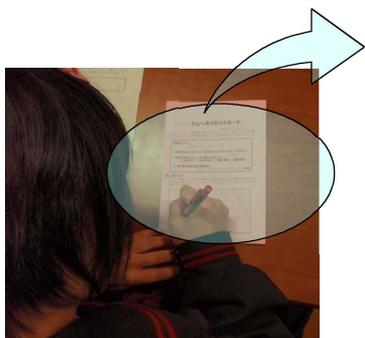
この活動において、発表者は、自分の考えたテーマについて、自分の言葉で発表するとともに、「ありがとうカード」の友達からの温かいコメントを受けとることで、発表に対する自信をもち、次のスピーチへの意欲につながる。また、友達の良いところや新たな発見をすることができ、望ましい人間関係を育成することにつながると思う。

そのためには、教師は、「ありがとうカード」に記入された内容を確認し、発表者へのねぎらいや称賛の気持ちを表現することが重要である。



【資料⑨：発表の様子】

【生徒が記入した「ありがとうカード」の様子から】



人物がだれだか分かりやすく、聞いていておもしろかったです。こういうスピーチをつくること自体思いつかなかったもので、すごいなと思いました。

私ももっと身近な人にたいして、ふりかえてみようとおもいました。

おもしろいスピーチをありがとう！ ○○より

印象にのこっているところが、3年生での体育大会とういうことが同じだったので共感できました。

声の大きさもちょうどよかったです！

私にも3年での思い出はたくさんあったからこれを機に、いろいろふりかえてみたいと思いました。

良いスピーチをありがとう！ ○○より

いつも、クラスを中心に立ち、学級委員長として、みんなをまとめてくれてありがとう。小学校の頃からいつも明るくて、リーダー性のある○○さんは、とても頼りになる存在です。学級委員長は、責任感をもっていなければいけないから、とても大変だと思うけど、自分らしく頑張ってください。 ○○より

これらの生徒が書いた「ありがとうカード」の様子から、本研究で「目指す生徒の姿」との関連から次のようなことがうかがえる。

- ・ スピーチの仕方などを自分とくらべ、友達のよさを感じている。(◎自己理解と他者理解)

- ・ 友達のスピーチの内容をもとに自分のことを振り返る気持ちが表れている。(◎他者理解と自己理解)
- ・ 同じ思いを共有することができている。(◎人とのつながりの大切さ)
- ・ スピーチを通して友達が係活動をしっかり行っている姿に感謝している。(◎互いの思いやりや支え合い)

このように、「1分間スピーチ」は、生徒が、自己理解や他者理解を行うきっかけとなるとともに、人とのつながりを感じ、互いに思いやり支え合うことのよさを感じることに繋がった。

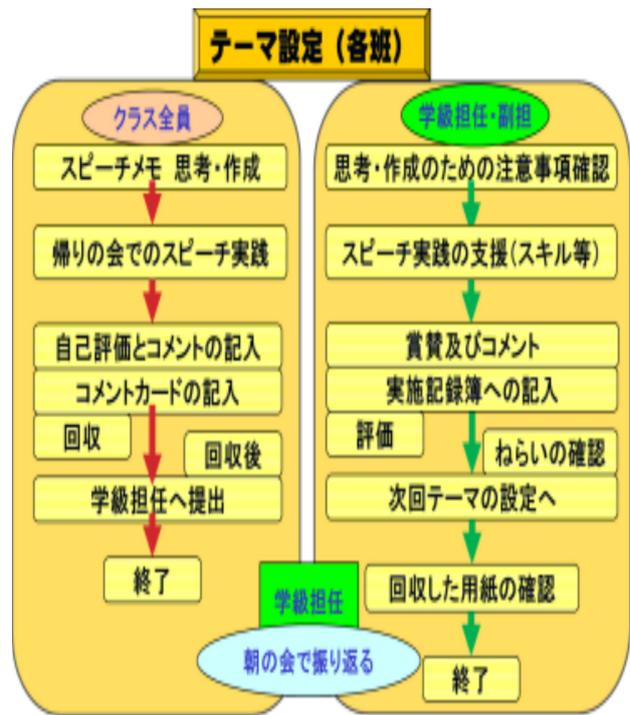
(イ) 「スピーチワン活動」の実践

「スピーチワン活動」とは、テーマを決め、5～6人のグループで意見交換をする活動で、友達の意見を聞き、自己の考えを深めるための活動として設定するものである。

具体的には、右のような流れに沿って、週1回を目安に実践した。(資料⑩)

グループでテーマを決め、テーマについて自分の意見を箇条書きにする。それをもとに、司会者を決め、意見交換を行う討論の形となる。

友達の意見を聞きながら、気がついたことなどについてメモをとる。意見交換終了後、自己評価をしながら、自他の意見に対して振り返りをする。



【資料⑩：スピーチワンの手順】

【生徒の「スピーチワン活動」についてのアンケートから】

活動後の生徒へのアンケートでは、学級の2名以外の生徒が、「協力しながら意見を言うことができた」と回答している。

また、3名以外の生徒が、「積極的に取り組むことができた」と回答している。

生徒の感想としては、多くが「楽しい。」「日頃、話題にしないテーマで、人の意見をいろいろ聞けてためになる。」などであった。

このことから、発言をしやすく感じたり、互いの考えのキャッチボールができたりと、「スピーチワン活動」は有効であったと考える。

このような活動をとおして、生徒は、自己理解と他者理解を深め、人とのつながりの大切さや互いに思いやり支え合うことのよさや大切さを感じとることができると思う。

Ⅲ 研究の成果と課題

1 成果

- 学習指導過程の各段階に、特に重視したい生徒指導の機能を位置付けたこと、授業における言葉かけや「教師と生徒のコミュニケーションサポートの視点」を明確にする等の工夫をしたことが、教師自身の意識の高揚につながった。
- 学習指導過程の各段階において学習形態を工夫したことにより、望ましい人間関係が生まれ、「人間関係力」が身についた生徒の育成につながった。
- 「スピーチワン活動」等の工夫をしたことで、生徒は、自己理解と他者理解を深め、人とのつながりの大切さや互いに思いやり支え合うことのよさを感じとることができたと考えられる。

2 課題

- より適切で客観的な資料による分析を行い、目指す生徒の姿に向けた手立ての工夫を行っていききたい。
- 生徒への言葉かけなど教師の具体的な言動を類型化することにより、生徒指導の機能を生かした生徒の「人間関係力」を高めるための手立てをより明確に示していききたい。
- 「教師と生徒のコミュニケーション・サポートの視点」のさらなる有効活用の在り方について、研究を深めていききたい。

《参考文献》

文部科学省	(2010.3)	「生徒指導提要」	教育図書
文部科学省	(2009.9)	「中学校学習指導要領」	東山書房
文部科学省	(2009.9)	「中学校学習指導要領解説数学編」	教育出版
小林昭文 著	(2004.4)	「担任ができるコミュニケーション教育」	ほんの森出版
山崎洋史 著	(2009.11)	「学校教育とカウンセリング力」	学文社
多鹿秀継 著	(1999.2)	「認知心理学からみた授業過程の理解」	北大路書房
月刊誌	(2010.7)	「授業力&学級統率力 2010年8月号」	明治図書
月刊誌	(2001.10)	「授業力&学級統率力 2010年8月号」	明治図書

《研究実践学校》 三股町立三股中学校